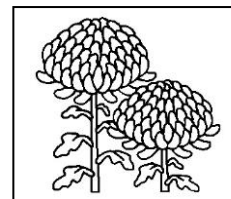


2013 年秋号

ぷらう 49号



発行：TEACCH プログラム研究会

<会長のつぶやき>

TEACCH プログラム研究会会長 内山 登紀夫

<JDD ネット>

本会は理事会の決議を経て JDD ネットに参加申請し、申請が認められ参加することになりました。会員の皆様には初めて JDD ネットの名前を聞かれる人もいると思うので、簡単に説明します。正式名を日本発達障害ネットワーク、略称が JDD ネットです。JDD ネットは、発達障害関係の全国および地方の障害者団体や親の会、学会・研究会、職能団体などを含めた幅広いネットワークです。JDD ネットの HP には次のように書かれています。

我が国における発達障害を代表する全国組織として、従来制度の谷間に置かれ支援の対象となっていなかった、あるいは適切な支援を受けられなかった、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害のある人およびそのご家族の権利と利益の擁護者として、理解啓発・調査研究・政策提言等を行い、発達障害のある人の自立と社会参加の推進に向けて活動を行っています。

より詳細に知りたい方は HP<http://jddnet.jp/index.htm> をご覧下さい。本会が JDD ネットに何故参加したのか？TEACCH を勉強するだけなら、JDD ネットに入会する必要はないかもしれません。私たちの目的は日本の自閉症スペクトラムの人たちを支援するとともに、教育や福祉現場、社会で自閉症理解を促進し、自閉症スペクトラムの人が安心して、豊かな生活できる日本にしていくことにあるはずですが、そのためには行政や社会に自閉症スペクトラムや発達障害のニーズがどういふものであるか教育行政や福祉行政に訴え、施策に反映させていく必要があります。JDD ネットに参加することで、私たちの声を、よりいっそう行政や社会に届けることができるのではと考えました。JDD ネットは東日本大震災の際にも多くの専門家を被災地に派遣しました。大きな組織に入ること、必要な支援を必要な人々に届けやすくなるというメリットもあります。

本会の会員は 2500 人にも上ります。自閉症スペクトラムの人の近くにいる私たちが、一丸となって声をあげていくことで、日本の自閉症支援を少しでも良いものにしていきましょう。



ノースカロライナ訪問記 ー広い空の国からー

神奈川支部 諏訪利明

もう半年以上も前になりますが、今年の2月にノースカロライナに行ってきました。(既にご存知の方もいらっしゃると思います。)そのときのことをぜひ聞かせて、と編集委員から依頼を受けたので、もう一度まとめて報告してみたい、と思います。

今回のツアーは、自分が川崎医療福祉大学で働くようになったからには、ぜひ一度は企画したい、と思っていたものでした。大学院のTEACCHコースで学んでいる学生たちにぜひ現地のTEACCHにふれてもらいたい、そしてかつて自分がそうであったように、自分の臨床をもう一度整理する機会にしてもらいたい、ノースカロライナに行けば、そしてその空気に触れれば、もっとつかめるものがあるはずだから。最初はそんな思いのスタートだったのですが、自分自身も本当に久しぶりの再訪(最後に訪問したときからしたら、10年ぶり!)で、計画の段階からはしゃぎだし、結局、ちゃっかり学生たちを出汁に使う、自分が行きたかっただけなのかもしれない(汗)。今思えば、TEACCHについて、いろいろ聞こえていた噂を自分の目で確かめてみたかったんだろうな、と思っています。

今回のツアーは、行き帰りの行程も含めたら、10日間のツアーでした。そのうちアルバマールに1日、シャーロットTEACCHセンターに3日、チャペルヒルTEACCHセンターに1日、それぞれ滞在しました。

アルバマールというのは、シャーロットから1時間くらい離れたところにある町で、それこそ20年前、自分がTEACCH研修生だった頃に、毎週通っていたところでした。そこには自閉症の人たちのためのグループホームがあり、当時、TEACCHと契約を結び、自閉症の人たちに合わせた地域での暮らしをサポートするというので、とても注目されていました。今では、GHA Autism Supportsと名前を変えて、でも全然変わっていない所長のドーンさん、当時はTEACCHのコンサルタントでしたが、今はGHAのスタッフになっているジャネットさん(この人も変わらない!)たちとの再会も果たし、さらに、Carolina Farmsという農場型の居住サービスの中にあるホームでは、ニッキーという自閉症の青年(当時は小学生でした!)にも、念願かなって再会することができました。当時、乾燥マカロニのネックレスを首に下げて、暇になるとそのマカロニをカリカリ齧りながら教室ですごしていた彼が、すっかり大人になって、ひもを手にヒラヒラ振りながらではあるけれど、安定してくつろいでビデオを楽しんでいる様子に、そこでの支援が、「自閉症」「生活」を柱にして、ぶれずに展開してきた歴史を感じることができました。

シャーロットTEACCHセンターでは、3日間、日々違う診断評価セッションに陪席することができました。1日目は小学校1年生の男の子、2日目は20歳の女性、そして3日目は2歳の男の子。高機能自閉症の診断評価は希望していた場面だったのですが、早期診断、早期療育の様子も見学できたことは、とてもタイムリーで、勉強になりました。そして、どの場面でもスタッフの「家族との協働」姿勢を強く感じることもできたのも大きな収穫でした。自分たちの行っていることをすべて家族にみてもらいながら、そしてあらゆる情報を家族とオープンにやり取りする中で最初の信頼関係が生まれ、それを軸に療育が展開していく流れを作り、その中で家族の自分の子どもに対する理解が促され、育っていくという手応えを積み重ねていく。自分がまさに家族との関係をうまく作れなくて悩んでいたときにTEACCHからアドバイスされたそのプロセスが、今もちゃんと大切にされていることを感じましたし、自分がやってきたことも間違っていない、ということも確かめることができました。

しかし、その一方で、彼らの診断評価セッションに、当たり前のようにCARS2やADOS2のさまざまなモジュールというように、日本ではまだ一部の研究者レベルにとどまっているツールが使われているのを見て、とても焦ったのを覚えています。自分が勉強不足だったのだから仕方ないのですが、日本の現場がPEP3、TTAPまでで止まってしまっているような気になりました。ちゃんと勉強してきている人たちにしたら、「何を今さら？」という感じでしょうが、現場のあわただしい毎日に追われる中で、すっかり取り残されていたんだ、という認識を新たにしました。

チャペルヒルTEACCHセンターでは、たまたま金曜日、彼らのミーティングデイにお邪魔したこともあって、

1日みっちり講義を受ける羽目(?)になりました。新しい TEACCH のディレクターである、ローラ・クリンガーさんにもお会いすることができました。彼女の、TEACCH を誤解する人をこれ以上増やしたくない、という思い、そして高機能の自閉症の人たちを支援する機会が増えるにつれて、変わってきているサービスの内容、さらに、自閉症の人たちの独特なニーズに応えていくためには、まだまだ研究を進めていかなければならない、という思い、彼女の言葉には「新しい TEACCH」を模索する熱き思いがあふれていました。そして、もちろんその流れは、今までの偉大なるショプラーやゲーリーたちが作り上げてきた手応えのうちにあるもので、ディレクターが変わることで TEACCH がなんだか全然違うものになってしまうのではないか、というような漠然と日本で感じていたような不信感は一気に払拭されました。

そしてその後、スーザン・ボズウェルさんによる早期療育クラスの物理的構造化見学、さらにバーガディン先生の CARS2 講義(バーガディン先生は 2 月のコラボレーションセミナーで京都に来られます)パメラ先生の ADOS2(Toddler)講義、そしてリー・マーカス先生の新しい TEACCH 資格制度の講義、と続き、もうこれ以上は勘弁、というくらいの気分の中で、最後はマーク・クリンガー氏による(ローラのご主人です)新しい研究の講義と続いた、というわけです。もっともマークは、ヘロヘロになっている私たちを一目見るなり、すかさず講義を終了して、そのままパブに連れて行ってくれました。(エラいっ！)

「変わっていく」TEACCH のその流れに、日本の TEACCH プログラム研究会としてはどう反応するのか、その流れの底にある「変わらないもの」を大切にしながら、新しい関係をどう作り上げていくかが今後、重要な課題になると思います。今回、訪問してみて、改めてまた TEACCH に学びたい、と思いましたし、TEACCH から、まだまだつながって学び続けてください、そんなメッセージをもらったような気がします。



平成 26 年度からの会費納入方法の変更について

これまで、会費の納入窓口は、ゆうちょ銀行だけでしたが、平成 26 年度から、ゆうちょ銀行と合わせて、お近くのコンビニエンスストアでも、会費を納入していただくことができるようになります。

詳しくは、12 月に、土倉事務所(会費管理委託業者)より、来年度(平成 26 年度)の会費振り込み用紙をお送りする際に、あらためてお知らせいたします。

平成 25 年度 第 2 回理事会報告

平成25年度第2回理事会は、平成25年7月7日(日)13:30~17:00にメルパルク京都研修室にて行われました。

参加者:内山、村松、宇山、中村、黒田、中井、笠合、小川、三谷、丸田、井上、森田、西村、内田、入井、岡本、三ヶ田、五味、原崎(会計)
欠席: 諏訪(SKYPE 参加)

この理事会での決定事項および継続審議事項についてお知らせいたします。

議案1. 実践研究大会 2013 in 石川 について報告

石川支部笠合理事より、第 11 回実践研究大会<平成 25 年 3 月 2 日(土)~3 月 3 日(日)、於石川県文教会館(金沢市) 大会参加者数 134 名(公開講座のみ参加者は含めず)>の全体のまとめ・会計報告について報告され、その内容について承認された。

また、今後、実践研究大会やコラボレーションセミナーでの実践報告の発表者に対して、大会実行委員会から、往復交通費と宿泊費 1 万円(報告に必要な宿泊費)を補助することになった。(発表者が複数の場合、補助は 2 人分までの往復交通費と宿泊費を上限とする)

議案2. 2014 コラボレーションセミナー2014 in 京都について

平成 26 年 2 月 15 日(土)~16 日(日)に行う、2014 コラボレーションセミナーについて、村松常任理事より、実施企画等について報告、検討された。

メアリー・バーガディン先生(ラーレイTEACCHセンター所長)の来日に合わせて、大阪大学で、コラボレーションセミナーの前日に、バーガディン先生によるCARS-2の研修会を行う企画があり、旅費を、TEACCH研と大阪大学で、折半することになり、CARS-2へのTEACCH研からの参加者も認めていただくことになった。

「セクシャリティ」のテーマの践報告者について、支部からの推薦を受けた。

また、丸田理事より、コラボレーションセミナーへの参加申し込みを機会に、TEACCH プログラム研究会に入会を希望する場合の申し込みの手続き、参加費・会費の納入方法等について提案され、検討された。

議案3. 支部助成金事業について

前期に、すでに助成金事業を実施した 2 支部(京都、滋賀)より実施報告を受けた。

新たに、申請のあった 8 支部(東京、香川、神奈川、福岡、石川、山梨、大分、北海道)より企画内容について報告され、承認された。

また、支部助成金企画については、平成25年度までの2年間試行してきた成果について検討したところ、支部活動の活性化や充実に役立っていることから、来年度も、支部助成金事業は、これまで同様の300万円の予算で継続実施することになった。

議案4. 新支部設立に関する内規の作成について

事務局より、新支部設立に関する内規の作成についての趣旨説明がされ、どのような条件があれば存続可能な支部として設立を承認できるか検討した。さらに、内部規約作成のために、検討を継続することになった。

議案5. 会費管理システム(コンビニ払い)について

事務局より、会費の納入窓口をゆうちょ銀行とコンビニ払いを併用にできる会費管理システムとその運用経費について説明され、このシステム導入の時期について話し合った。来年度(平成 26 年度)の会費の請求に合わせて、導入することに決定した。

議案6. ぶらう 48 秋号掲載記事について

記事の分担と発行のスケジュールについて岡本理事より提案され、確認された。

議案7. トレーニングセミナー2014 in 大分 について

三ヶ田理事より、来年 7 月 15 日からトレーニングセミナーを大分で開催の予定で準備をしてきたが、ノースカロライナの TEACCH が新体制になったことで、TEACCH の研修体制が変わってきており、その影

響で、日本で行ってきたトレーニングセミナーをこれまで通りの計画で実施して良いのか、検討中であるとの報告を受けた。

その後トレーニングセミナーの実施について、TEACCHへ書面で問い合わせ、その結果をもとに今後の方針を検討することになった。

議案8. 第12回実践研究大会(2015)in大阪 について

井上理事より、2015年3月7日(土)～8日(日)の開催予定と報告を受けた。

議案9. その他

次回の理事会は、平成26年2月14日(金)18:00～(場所は未定)

平成26年度総会のご案内

日時:平成26年2月15日(土)16:45～
場所:京都シルクホール

☆みなさんの大事な会費執行状況や本部の活動について報告します。
ぜひご参加ください。

TEACCH研 HPについて

新しいホームページに変更しましたが、いかがでしょうか？少しずつ様々な情報をアップしていきたいと思えます。コラボレーションセミナーのパンフレットもアップしていますので、お友達に紹介してみてくださいね。

今後の予定としまして、会員ページに過去のぶらうを順次アップしていきます。
TEACCH プラグラム研究会の歴史を感じられますよ。楽しみに！！

会員ページへはENTERをクリックした後、アクセス認証画面に下記英数文字を入力し、アクセスしてください。(平成25年11月1日より有効)



USER ID	autism
PASSWORD	4a7jsg6